

荒野の誘惑

マタイによる福音書四章一〜11節

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」と書いてある。(4)

神の霊が鳩のように下り、父なる神の愛と喜びの声が語られたあと、イエスは荒野において悪魔の誘惑を受けられました。神の御子でさえも、しかも大きな喜びのあとで誘惑を受けられたのです。三度にわたるサタンの誘惑に対し、主イエスはことごとく神の言葉をもって退けられました。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」。サタンは私たちに対しても様々な声色を使って語りかけてきます。ある時は優しく、ある時は激しく。時にはサタンも神の言葉を巧みに利用して、私たちがそそのかそうとします。「聖書にはこう書いてあるから大丈夫だ」と。サタンの誘惑を退けるには、主イエスが示されたように、神の言葉を正しく用いることです。私たちはどんなときも、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる者たちなのです。